

平成28年度第5回宇都宮市河内自治会議録

- 1 日時 平成28年10月21日（金） 午後1時30分～午後3時20分
- 2 場所 河内地域自治センター ホール
- 3 出席者
- 【委員】 杉原弘修委員（会長）、川上幸子委員（副会長）、加藤幸雄委員、岩寄悦男委員、
計13名 菊地久美子委員、白坂喜美雄委員、五月女京子委員、防木正雄委員、松谷悦広
委員、我妻勝次委員、小森光晴委員、島田正重委員、永井寛委員
- 【事務局】 河内地域自治センター所長、地域自治制度担当副参事、地域まちづくり担当副
計11名 参事、自治振興課長、地域経営課長、地域づくり課長、保健福祉課長ほか4名
- 4 会議の公開・非公開 公開
- 5 傍聴者数 なし
- 6 会議経過

(1) 開会

- ・本日の会議の出席者数は13名、櫻井基一郎委員、宗像茂委員、小曾戸和子委員、多田出芳子委員、田村正男委員、中澤敏美委員、山田祐子委員が欠席。委員数の過半数に達しているため、会議が成立することを事務局から報告

(2) 報告事項

- ・河内地域の保健サービス提供等について

発言者	発言内容
健康増進課・保健福祉総務課	平成29年度からの上河内・河内地域の保健サービス提供と保健センターの施設の利活用について、資料により報告
事務局	ただいまの報告について何か質問はあるか。
委員	河内保健センターの業務は、河内地区市民センターに全て移行するという事なのか。センターの一部で業務を行うのは手狭に感じるため、現状のままでも良いような気がした。上河内保健センターは残るようだが、河内保健センターだけが無くなるような感じである。
保健福祉総務課	河内保健センターについては、現在の河内総合福祉センターと渡り廊下で接続されていることもあり、総合福祉センターの一部として、利用する考えである。
委員	今まで河内保健センターで実施していた健診等は河内総合福祉センターの事業として、従来のように実施するのか。
保健福祉総務課	河内地区市民センターの会場が使用不可の場合は健診等を河内総合福祉センターの会場で実施することもある。
事務局	他に意見等はあるか。
委員	なし
事務局	保健サービスの提供と保健センターの利活用の説明は終了する。

(3) 協議事項

①地域のまちづくりに関する施策の提案について

・テーマ「安全・安心」10年間の集大成（全体協議）

会 長	地域のまちづくりに関する施策の提案について協議を行うが、今回の会議は出席者が少ないため、AグループからBグループに1名の移動をお願いしたい。
委 員	了承
会 長	前回の会議で審議し、確定した合併市町村基本計画の答申書を8月29日に副会長とともに市長へ提出した。新聞記事を配付したので、後でご覧いただきたい。地域のまちづくりに関する施策の提案について再協議を行う。事務局から説明をお願いする。
事務局	資料1を説明
会 長	事務局から説明があったが、質問等はあるか。
委 員	なし
会 長	意見が無ければ確定して良いか。
委 員	了承
会 長	他に意見はないか。無ければ、この協議を終了する。

・テーマ「産業・経済、観光」10年間の集大成（全体協議）

会 長	地域のまちづくりに関する施策の提案について協議を行う。事務局から説明をお願いする。
事務局	参考資料を説明
会 長	河内地区の事業所数及び従業者数について説明があったが、何か質問等はないか。
委 員	河内地区の10年先はどの方向に動いているのか検討いただき、今後のまちづくりに活かされればと思う。事業所が減少傾向であるが、従業員数の増加の理由として、製造業よりも教育分野や医療関係が増加したと思う。
事務局	事業所総数は横ばいではあるが、小売業等の事業者数は減り、医療関係や教育分野が増加している。産業形態が変化していることが読み取れる。
会 長	小売業が減少した理由として、周辺に大型店舗の進出したことも理由のひとつだと思う。住宅地が整備されると人口が増え、子ども達が増え、塾などが増加する。今後、この問題に対応するまちづくりを考える必要がある。 他に意見はないか。
委 員	なし
会 長	前回、協議いただいたテーマ「産業・経済、観光」について、事務局から説明する。
事務局	資料2-1 資料2-2を説明
会 長	事務局から説明があったが、質問等はあるか。先ほどの説明で、事業所が減少傾向ではないとなると、現状の弱みの「事業所が減少傾向にある。」では表記が合っていないと思うが、何か意見等はないか。
委 員	事業所は、減少傾向ではないので、形態が変化したことを文面にしてはどうか。
会 長	「形態が変化している。」と修正すると、産業形態に変化が生じているので、弱みに含めることはできないと思う。
委 員	総事業所数は減少傾向ではないので、削除してはどうか。小売業の減少を弱みにしてはどうか。

会 長	どちらかと言えば、強みの意味だと思う。
委 員	弱みを「高齢者が多くなり、買い物等の生活に支障がある。」或いは、「小売業等の減少について」ではどうか。
委 員	「小売業が減少傾向にある。」と、修正してはどうか。
会 長	小売業の業種に限り、表記をすることであれば、数値的にも問題ないと思うが、いかがか。
委 員	「産業・経済」は、前回の委員が検討した提案である。我々は余程のことがあれば、修正すれば良いと思う。まとめたときは、事業所が減少しているため、事業所が減少傾向にあるとまとめたのではと思う。
会 長	例えば、ある業種について減少傾向であるなら、今後の対応を議論する必要がある。小売業にも様々な種類があり、小売産業を拡大させるような議論だと、専門的になり、非常に難しい。従って、削除する形でまとめたいが、いかがか。この議論はまちづくりにも影響があると思うので、まちづくりで議論いただければと思う。他に何か意見等はないか。
委 員	なし
会 長	現状の弱み「事業所が減少傾向にある。」は削除する。次に、強み「河内工業団地と白沢工業団地がある。」と「豊かな農産物がある。」について、削除したいとの意見が出た。
委 員	一番目はこのまま残して欲しい。
会 長	「豊かな農産物がある。」と「野菜や果物など良質な農産物の産地である。」の内容は似ていると思うが、こちらについてもいかがか。どこの地域でも工業団地を造成し、工業団地の誘致をするのは一般的である。工業団地がふたつあることは羨ましいと思う自治体が多いと思う。皆さんの考えはいかがか。工業団地を整備したことで環境が悪くなり、空気汚染が問題になっているのか。有力な雇用機会を増やす施設として考えているのか。後者であれば、強みになる。
委 員	残したい。
委 員	強みとして残したい。
会 長	強みとして残してよろしいか。
委 員	了承
会 長	強みとして残すが、現状の強みの「ブランド力のある豊かな農産物がある。」を修正したものが「豊かな農産物がある。」である。これでよろしいか。
委 員	知名度が無いので「ブランド力のある」を外しても良いと思う。
委 員	ブランド力が無いのは悲しいが、河内地区の農産物の現状は県内に誇れるものではないと思うが、若い後継者が様々な作物に取り組んでいる。ブランド力を高める努力をしているのは確かである。将来の希望があることを言葉で残して欲しい。
会 長	課題に「地元の特産物のブランド力を高める必要がある。」とある。大きな課題として、残したい。
委 員	今年、白沢の米がブランドになった。
委 員	河内地区の米は比較的にレベルは高い。特に鬼怒川沿岸の米は古い時代から、大変に美味しいお米である。
会 長	ブランドと呼ばれる農産物は米として考えて良いのか。
委 員	他の農産物のブランド力を高めることでよろしいか。
委 員	ブランド力が高い農産物は確かにあるが、PR不足ではとの意見が出たので、課

	題として、残していただきたい。
会 長	今の意見について、課題は修正しなくてもよろしいか。
委 員	了承
会 長	再確認するが、現状の強みの①と⑤は残す。「事業所が減少傾向にある。」は、削除することで、よろしいか。
委 員	了承

・テーマごとのまとめについて

会 長	テーマごとのまとめを事務局から説明する。
事務局	資料3-1・3-2・3-3について説明
会 長	テーマごとのまとめについて、事務局から説明があったが、意見等はないか。
委 員	なし
会 長	この説明についてはこれで終わりにする。

・テーマIV「自然環境、都市環境」10年間の集大成（グループ協議）

会 長	昨年度に「自然環境、都市環境」を提案としてまとめたが、振り返りをするか、しないか、まとめたばかりで、メンバーの交代もほとんど無い。修正する必要は無いと思うが、よろしいか。
委 員	了承
会 長	これから第1期と第2期でまとめた、実現方策4の「環境負荷が少ない水資源の保全を図る。」について、グループ協議を行う。

テーマ「自然環境」のグループ協議を実施

発言者	発言内容
会 長	A・B・Cの順で発表をお願いする。
委 員	Aグループの発表をする。 実現方策4「環境負荷が少ない水資源の保全を図る。」の実現プラン「山林の保水力を高める。」については、山林伐採を極力、行わない。伐採した場合は植樹することで、山林に降った雨が地中に浸透し、それが地下水となり、保全されるので、実現プランとした。「湧水池の保全」については、河内地区には多数の湧水池があると聞いた。水の浄化等で湧水池は必要であるため、水資源の保全を実現プランとした。「浸透性のある川底の川」については、コンクリートのU字溝で整備すると、災害には良いと思うが、魚やホタルの幼虫等には非常に困難だと思う。川底に自然なままの形の方が石や砂利に魚の餌となる虫が自生でき、自ずと水質保全になるのではと思う。
委 員	Bグループの発表をする。 実現方策4「環境負荷が少ない水資源の保全を図る。」の実現プラン「河川のクリーン作戦」については、河内地域には鬼怒川等の河川があるが、家庭のごみ等が不法投棄されている。学校や地域の方々に協力いただき、定期的に河川のクリーン作戦を実施してはどうかとの意見が出た。「有機農業の推進」については、有機農業で米を作る地域がある。水田にカルガモを放して米を栽培している方もいるし、逆面地区ではフクロウを保護しているので、農薬等を最小限にし、米を栽培している。ホタルが増えてきた。河内地区の農業の推進を進めた方が水資源の保全になるのではと思う。「下水道の普及啓発」のプランは、河内地区では下水道を整備しているが、

	河内地区の西側の方は下水道の普及が遅れている。太陽が丘団地は、汲み取り方式のところがある。浄化槽から農業用水へと繋いでいる家庭もあるので汚れている。水資源を保護するためには、下水道を早急に整備し、未接続者に接続の普及啓発が必要ではとの意見が出た。
委員	Cグループの発表をする。 家庭から出る汚水の改善について、様々な意見が出た。実現方策4「環境負荷が少ない水資源の保全を図る。」の実現プラン「下水道の整備を早急に進める。」については、下水道の整備を徹底し、普及させるのが、一番だと思う。「環境指導員を育成し、活動を広げる。」については、環境指導員を配置し、河内地区全体で活発に活動すると、良い河内地区になるのではとの思いがある。 「食用廃油の利用（手づくり石けん）」については別の委員が説明する。
委員	家庭から出る廃油を利用した手作り石けんはとても環境にやさしい石けんである。以前は、地獄溜めがどこにでもあった。他の家庭は5年や10年ごとに掘り返していると思うが、我が家は、一度も掘り返したことが無い。理由として、廃食用油石けんを使用していたからだと思う。廃食用油石けんが普及になれば水資源の保全になるのではと思う。廃食用油石けんは匂いがあるし、色も付くので、衣類の洗濯には不向きであるが、汚れ落ちは抜群である。河内地区の河内消費者友の会で製作しているが、途絶えてしまう話が出てきている。那須烏山市の福祉施設で廃食用油石けんを製作している。市内で販売している状況である。市内では宇都宮市環境学習センターに製造できる機械があるらしい。河内独特の廃食用油石けんを利用いただきたい。
委員	私は「かわち消費者友の会」の会長を務めている。地獄溜めのあるところで大いに利用いただきたい。私が第1期自治会議委員の時に廃食用油石けんについての提案をまとめたが、段々と薄れてきた。今回の提案に加えていただけたらと思う。
会長	3グループの発表に対して意見等はあるか。
会長	他にないか。
委員	なし
会長	それではないようなので終了する。
会長	皆様からいただいたご意見を私と副会長で整理をし、次回の会議でお示ししたいが、一任願えるか。
委員	異議なし。
会長	次回の会議では、今回、テーマ「自然環境、都市環境」についてグループ協議を行った内容の確認をいただいて、提案書の素案について全体協議を行う。以上で第5回宇都宮市河内自治会議を終了する。

(6) その他

- ・ 次回の開催日程について平成29年1月16日（月）午後1時30分に開催予定。詳細は後日連絡
- ・ 「河内地域文化祭」についてのお知らせ
- ・ 「かわちふるさとまつり2016」についてのお知らせ
- ・ 「かわち福祉まつり」についてのお知らせ

(7) 閉会